

| | | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|--|-----|---|-------|--|------|--|------|
| 指定校番号 | 29002 | 学級活動 | | 児童会 | ○ | クラブ活動 | | 学校行事 | | 小学校用 |
|-------|-------|------|--|-----|---|-------|--|------|--|------|

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|------------|----|-------|--------|-------|
| 学校名 | 竹原市立竹原西小学校 | 校長 | 藤野 恵子 | 生徒指導主事 | 大谷 忠久 |
|-----|------------|----|-------|--------|-------|

取組事例名 『児童会活動の活性化』

取組のねらい『自律的に行動できる児童の育成』

- 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 子どもたちの力でより良い学校にしていくための活動をしていく風土を作る。
- 児童会活動を通して、高学年は活動を行うことでの達成感、自己肯定感を高めていき、低学年はその活動をいっしょに行うことで、模範的態度、自分の理想像を具体的にもたせる。

身に付けさせたい資質・能力

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- キャリアプランニング能力

取組の具体的内容『児童による新しい取組の実践』

- 運動委員会
 - ・昼休憩に一輪車や竹ぼっくりでタイムを競う「竹西ピック」を開催した。
 - ・職員室前に握力計を置き、休憩時間に児童が握力を測り、その記録を競う「握力チャレンジコーナー」を設置した。
- 生き物委員会
 - ・校内で飼育している金魚とウサギのえさやり体験を行った。
 - ・生き物に関するクイズを作成し、昼休憩にクイズ大会を開催した。また、参加した児童には、生き物に関する豆知識を書いた用紙を作成し、配布した。
- 図書委員会
 - ・それぞれのクラスで読んだ本の冊数を図書室前に掲示し、たくさん読んでいる人を表彰する「どんどん読書」を行った。
 - ・図書室にある本の分野をビンゴカードにして、読んだ分野の本に○をして、ビンゴにできればプレゼントを渡す「竹西読書ビンゴ」を作成した。
- ベルマーク委員会
 - ・ベルマークの仕分け作業の体験を呼びかけ、低学年がベルマークやインクカートリッジの仕分け作業を行った。



取組の課題・創意工夫『ねらいを明確に・参考例の紹介』

○ねらいを明確にして取組を考えさせる。

- ・ただ楽しむために行うのではなく、何をねらいとしてその取組を行うのかをはっきりさせて、活動を考えさせた。

例：生き物委員会 … みんなに生き物を大切にしてほしい、生き物についてもっと興味を持ってほしい → えさやり体験、生き物に関するクイズ大会（参加者には全員に豆知識カードを配る）

○参考例を全教職員で紹介する。

- ・児童が取組を考えるうえで、担当教員が参考例をもって委員会に携わっていきたい。そのために、参考例を担当教員だけで考えるのではなく、全教職員で実践例を出し合い、それを参考にして取組を実践していった。

取組の成果（効果）『取組児童・参加児童の達成感』

○取組を実際に計画し、実践した児童は、「自分たちで新しい取組を行うことができた」「お客さんがたくさん来てくれてうれしかった」「みんなが楽しんでくれていたのがよかった」と達成感を味わえることができた。

○参加した児童は、競技や取組を実際にするすることで、活動を楽しむことができた。また、取組によってはその結果を全校朝会で表彰し、自己肯定感を高めることもできた。

○大会を目標に竹馬で遊ぶ児童が増えたり、本をたくさん読んだりする児童が増えた。

○運動会や学習発表会などの行事、毎日のそうじ活動、各教科の活動においても、児童が積極的に行動し、「自分たちの手で成功させよう」「見に来ていただいた方々に楽しんでもらおう」「学校をきれいにしよう」と努力する姿が見られた。（「①黙って②時間いっぱい③すみずみまで」掃除することで、3項目中2項目ができている児童 93%）



今後の展開『ねらいを忘れず よりよい取組に』

○今年度行った取組を児童とともに振り返り、うまくいった取組はよりよい取組にするにはどうすればよいか、うまくいかなかった取組はどう改善していくかを来年度に引き継げるようにしていく。

○新しい取組をすることを目的とせず、自分達の委員会のねらいを明確にして、そのためにできる取組は何かを考えるようにしていく。

他校へのアドバイス『児童主体でも道筋は教員が』

○児童主体の活動や取組にしていくが、教員がその取組が委員会のねらいに逸れていないかをチェックするとともに、活動の道筋をつけていくことが必要である。そのためにも、教員自身が担当の委員会で「自分の委員会のねらいは何で、そのために何をするか」を考えておくことが大切である。